



中秋の名月

暑い夏が終わり秋が来ると、空気は澄み、どんどん空が高くなってきます。もうすぐ中秋節ですよ。今年の中秋節は10月1日で、ちょうど中国の国慶節と同じ日です。こんなに重なる事は珍しいですね。ちなみに今年中国の中秋節は10月1日～8日の8連休です。中秋節とは、旧暦8月15日の十五夜にお月見をするならわしです。中国語では“中秋节 zhōngqiūjié”といいます。中秋の名月の別称である十五夜（のお月さま）もこの旧暦の頃の名残です。

日本では、平安時代に遣唐使によって中国からもたらされた、「望月」という月を見る催しが平安貴族に浸透し、観月の宴が催されるようになりました。それが農村を中心に庶民の間で行われていた作物の収穫祭と結びついていきます。豊かな実りの象徴として十五夜を鑑賞し、お供えものをして感謝や祈りを捧げるようになりました。中国では中華三大節のひとつである中秋節として、春節（中国の旧正月をお祝いする節）、清明節（日本のお盆のようなもので里帰りやお墓参りをする）と並ぶ大きいお祭りとなっています。

中秋節は中国の伝統的な祝日で、史書によると最初に「中秋」という言葉を記したのは『周礼』でした。唐代に入って初めて、中秋節はようやく祝日として決められるようになり、『唐書 太宗記』には、「八月十五日、中秋節なり。」と記述されています。唐代、中秋節は「真ん丸い月の日」とも名づけられました。宋代に入ってから、中秋節は流行し始め、明、清になって、春節（旧暦の元旦）と肩を並べるほどの重要な祝日の一つとなりました。

「団欒（だんらん）節」にまつわる記載が最初に現れたのは明代でした。この頃から中国の広い地域では、中秋節の夜に「月に似た団欒を象徴する月餅を作る」風習が続いています。月餅の中身は砂糖やゴマ、金木犀の花、野菜であり、外皮には、月や桂、兎などの図案が押されています。月を拝んだあと、家族の年長者は人数によって月餅を分け、みんなに食べられるようにします。また、留守にした家族にも残しておきます。

中秋節になぜ月餅を食べるのか、こんな伝説が伝えられています。元朝末期、農民たちが異民族である元

王朝に対して決起します。その際紙きれをしのばせた月餅を贈り合い、その紙に「決起の日は中秋節」と書かれていたのだそうです。その後中秋節に月餅を食べる習慣が広がるのですが、その理由としてはもう一つ、月餅の丸い形が「家族の輪」「家族の団らん」を意味するからだそうです。

現在、月餅の餡には小豆餡のほか黒ゴマ餡、ハスの実の餡や松の実の餡などさまざまな餡があります。甘い餡の中にさまざまなナッツ類や塩味のアヒルの卵が入ったもの、肉やハムが餡になっているものもあります。本格的な中国の月餅はお腹にずっしり納まる感じます。お菓子というより高カロリーの保存食という感じがします。現代の中国人にとって中秋節は月を愛でるとともに、何より家族団らんの日です。家族が全員テーブルを囲み、月餅を食べ、お月様を眺めます。その日家族が一人でも欠けるなら、家を離れている者も残った家族も、互いを想う心をついに空を見上げ同じ月を眺めるのです。

中秋節定番の縁起物月餅ですが、これは昔から贈り物としても用いられてきましたが、十何年前から、段々値段は高くなって、一箱4つ入りで100元以上は普通です（昔は20～30元ぐらい）。しかも包装も豪華になって、月餅より箱の方が高い場合もあるぐらい。近年は賄賂をしのばせる隠れ蓑（かくれみの）としても使われてきました。月餅の入っている箱の下にお札を入れておくのです。ある小説では役人の家の子供が、贈られてきて山積みになった月餅の箱を片っ端から開け、中のお金を取り出そうとしている姿が描かれています。こうした風潮がやり玉に挙げられ、2013年からは公費を使って月餅を贈ってはならないという禁止令が出ています。

最後に「祝大家中秋节快乐。」

唐 啓山

タピオカ専門店「茶千歳」

今回ご紹介するのは事務局近くのお店「茶千歳」です。台湾発祥と言われるタピオカドリンクの専門店、上山学院の先生の元教え子（中国人）が経営しています。店内は広く開放的でテーブル同士も離れているので、ウイルス対策は万全のようです。持ち帰りもできます。

メニューは黒糖タピオカがメインで、タピオカを入れるドリンク

を選ぶのですが、緑茶ミルクティー、ウーロン茶ミルクティー、ココナッツミルク、紅茶ソーダなど沢山の種類があり迷ってしまいます。ザクロやオクラのレモンティーという変わりダネもあります。

飲んでも飲んでもタピオカがまだ入っていて、一杯でお腹がいっぱいになりました。大きくてモチモチのタピオカなので、喉に詰まらせないように十分ご注意ください！



住所 名古屋市中区栄 4-17-26
TEL 052-684-9774

成語故事コーナー

pòfūchénzhōu

破釜沉舟（はふちんせん）

秦の時代の末期、世の中は戦争ばかりでした。趙国の軍は巨鹿という地で秦の軍隊に包囲され、絶対絶命の状況でした。

項羽は楚王の命を受け、趙軍を救うために出兵しました。しかし、当時の秦の軍隊は項羽の軍の数倍の大群で、項羽の軍の兵たちは川を渡ったところで恐ろしくなり、進むことができなくなりました。

そのまま読めば「釜を破り舟を沈める」でしょうか。後がない戦いに臨むときに使われる言葉です。

同じような意味の言葉に「背水の

陣」があります。日本語でも馴染み

のある「背水の陣」ですが、中国語では一般的な場面で使える言葉であるのに対して、「破釜沈舟」は本

それを見た項羽は焦りました。「敵は我が軍に比べて強大だ。兵たちは恐れてしまい、戦意を失っている。このまま戦っても勝ち目がない。なんとかして士気を上げて戦いに挑まなければ。」

そこで、項羽は川を渡ってきた船を沈め、釜や鍋、食器などもすべて破壊し、川へ廃棄してしまいました。

「我々はもう逃げることはできない。そして、ここに居ても死ぬだけだ。」

そう言うと、兵たちを率いて秦軍に挑みました。

帰る船もなく、満足に食事もできなくなった兵たちは、生きて帰るために必死で戦いました。そして、遂には秦軍を打ち破ったのでした。

当に命懸けとなるような場面でも使われないそうです。そのためか、歴史ドラマなどでは「破釜沈舟」がよく出てきます。

漢方教室 117 こうじと酵素のWパワー

【麹菌とは？】

麹菌は東洋にのみ存在する有用微生物です。日本独特の気候風土により自然発生した世界でも類を見ないこの微生物は、デンプンをブドウ糖に、タンパク質をアミノ酸に分解する性質が強く、しかも効果的に脂肪を分解吸収するので、東洋微生物の王様とも呼ばれてきました。

【酵素とは？】

酵素は、生命活動をしている物に

は必ずある物質で、ほぼ「タンパク質」からできています。酵素は食べ物の消化を始め、皮膚の新陳代謝、血液の循環など体のあらゆる働きに関わっています。酵素が不足すると、すぐに体調に現れます。やる気が起きない、消化不良、肌の不調なども酵素不足が原因の可能性がります。

日本安恵の『こうじ生酵素』は、酵素活性が高まるように、大麦、あわ、ひえ、きび、タカキビ、紫黒米、米など7種類の穀物を麹菌で発酵し

ています。これにより、酵素力はなんと従来の酵素の126倍にパワーアップしました。

1日の目安量2粒、着色料、添加物は使用しておりませんので、安心してご利用いただけます。

興味のある方は052-242-3930まで。

中統ビル3階 日本安恵株式会社



中国から日本へ、その後の暮らし
—思い出すがままに④〇

昭和26年～29年までの中学校3年間は、その後の生活に大きな影響を及ぼすことになりました。当時の中学校にカリキュラムがあったのかどうか定かではありませんが、教科の学習以外に、戸外で汗を流して働く時間がかなりあったように思います。

当時のトイレは、汲み取り式のものでしたから、月に何回かは当番で汚物を汲み取り、その樽を二人で担いで農場へ運ぶ作業がありました。またある時は、通学路の整備ということで、竹藪を切り開き、整地をして道を作ったこともありました。当時としては、学校に予算がなく、そうせざるを得ない事情があったのでしょう。

潤沢にお金がなかった時代、人力に頼らなければならなかったのではないかと思います。そのお陰で、道具の使い方、協力をしてことに当たることの大切さを学びました。教室の中だけでは習得することができない、いろいろなことを身に付けることができました。

学校の畑では、農作業もありました。教科学習の一環でしたが、まくわ瓜の植え付けから収穫までをやったこともありました。分けていただいた瓜を家に持ち帰り、おいしくいただきました。

杉本 克治

詩

この頃の新聞は広告ばかりで読みでがないが、短歌・俳句・川柳の欄は楽しい。時事川柳などは政局を揶揄する鋭い視点に喝采を送りたくなることが多い。文芸の分野としては詩もあるが新聞に載ることはあまりない。詩はわからないことが多いし、理解させられるのは嫌だ。でもたいてい人は詩心を持っている。書き留めてみませんか？

「詩」

詩人はふっとキャッチしたものを
人に伝わるように
言葉で構築するのだらう
でもこれでいいんだよ
八木重吉の
「細いガラスがびいんとわれました」

「詩人」

エゴンシーレの鉛筆の素描
ちひろの一刷け
モーツァルトのラシド
げろ吐くように
一直線に からだから
飛び出てきてしまう
ことば
書きとめない人々…

石川 知子

菅新首相に大きな「感慨」を覚えた理由

中国のポータルサイト・百度に9月15日、16日に新首相となる菅義偉氏が持つ異色のバックグラウンドに「大きな感慨を覚える」とする記事が掲載された。

記事は、14日の自民党総裁選で「令とおじさん」こと菅氏が総裁に選出され、16日の国会で新たな首相として指名される運びになったと紹介。新たな日本の「顔」が誕生することについて「最も感慨を覚えるのは、菅氏の出自が平凡中の平凡であることだ」と伝えた。

そして、日本の政界では派閥や出自が往々にして重んじられ、特に近年は安倍晋三氏を含む歴代の首相の多くが「政治一家」の出身であるのに対して菅氏については「全くも

って異なる」とし、秋田県のイチゴ栽培農家に生まれた、「生粋の農民出身者なのである」と説明した。

また、農村で育った菅氏が18歳になると出稼ぎ工として上京し、段ボール工場に就職してしばらく働こうちに大学へ通うことを志し、日中の仕事を終えた夜間に勉学に励んだ結果、法政大学の第二部（夜間部）に入学したと紹介。後に菅氏が同部に入った理由について、私立大学の中で学費が最も安く、夜間や休日の講義が主体であることから仕事と勉学の両立ができる点を挙げたとしている。

さらに、その後サラリーマンとして汗を流して働く中で政治を志すようになり、大学を通じて当時衆議

院議員だった故小此木彦三郎氏の秘書となったところから政治家として人生が始まったと伝えた。

記事は「まとめると、菅氏の最大の特徴は地盤、地名度、お金のいずれも持ち合わせない『三ない政治家』ということになるかもしれない」と菅氏を評している。

中国では菅氏について、安倍氏が残した約1年の任期を全うする過渡的な首相との見方があるようだが、「農民出身」というキーワードは安倍首相をはじめとする歴代の首相とは異なる印象を中国の人びとに与えることになりそうだ。

高田 拓

お知らせ

★10月例会

日時：10月6日（火）18：00～

講師：川村範行氏

「新型コロナと日中関係について考える」

★JCCA 中国語サロン

日時：10月3日（土）17日（土）14：30～

★日本語広場

10月の日本語広場はお休みです。

★11月例会

日時：11月3日（火）18：00～

上山学院日本語学校からのお知らせ

○ 日本語学校の現状

今年度は新型コロナウイルスの影響により新入生が入国できず、在校生も休校という異例のスタートとなり、会員さんからもご心配の声をいただきました。

在校生に関しましてはGW明けからオンラインで授業をスタートし6月中旬より通常授業再開しております。お陰様でウイルスの第2波はあったものの現在に至るまで無事に授業はできております。しかしながら、進学に関わる様々な予定は新型コロナウイルスの影響を受けて、日本語能力試験や日本留學生試験の中止、進学説明会やオープンキャンパスを中止するところもあり、今年度の進学環境は非常に厳しい状況です。何とか無事に全員進学できるようスタッフ一丸となって頑張りたいと思います。

また、今年度60名ほど予定していた新入生はまだわずか2名（トルコ、フィリピン）しか入国出来ない状況が続いております。そんな中、最近になって少しずつ、留學生入国解禁に向けての明るいニュースも入るようになり、一日でも早く彼らに会えることを願っています。

最後に今年度から中統興産（株）の社員としては初めて、上山学院の卒業生 Woninck Eric（オランダ出身）が入社しました。彼の温厚な人柄と堪能な語学力、前職のIT技術を発揮して、留學生の力になってくれることと思います。是非会員の皆様もお越しの際は、よろしくお願いいたします。

○ 避難訓練の実施

9月18日、上山学院の全校生徒で秋の防災避難訓練を行いました。事前に告知はなく「地震です。先生の指示に従って避難してください。」と校内アナウンスがかかると、驚いた学生もいましたが、指示に従いスムーズに行動していました。体格が良く机の下に入ることができなかった男子学生もいましたが、クラスごとに一列に並ぶと順番に外へ出て、速やかに久屋大通公園に集合することができました。皆、校長の話聞き防災意識を高めたようです。

10月例会

・日時：10月6日（火）

18：00～ 中国語で話そう会

18：50～ 「新型コロナと日中関係について考える」

講師：川村範行氏

19：40～ 茶菓での交流会

・会場：中統奨学館ビル4階

10月より月例会を再開致します。講師は中日新聞社元論説委員であり、名古屋外国語大学特任教授、東海日中関係学会会長、そして当協会の理事である川村範行氏です。

皆様、是非ご参加ください！



編集局

編集局では現在、携帯電話番号、生年月日、E-Mailアドレスのご登録を推奨しています。イベントのご案内、「誕生日の人の言葉」の掲載、WEBサイト更新の通知などに使用致します。china@chuto.co.jp宛にご送付ください。ニューズレターは、WEBサイトにてカラー版を公開しています。郵送不要の方は「郵送不要」とご連絡ください。



〒460-0008 名古屋市中区栄4-16-29 中統奨学館
TEL：052-262-1410 FAX：052-262-5036
一般社団法人日中文化協会 編集長 上山耕治